

湯本駅周辺の今後のまちづくりに向けたアンケート調査

【概要版】

1. 概要

1.1. 目的

「常磐地区まちづくり検討会」における計画素案に対する住民の意向を把握するため、常磐地区に居住する住民（500名）を対象に実施したもの。

1.2. 概要

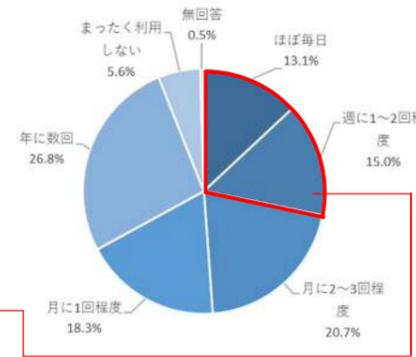
調査期間：令和3年1月8日（金）～29日（金）
 調査対象：地区に居住する20歳以上の男女500名（住民基本台帳から男女別・年齢階層別に無作為抽出）
 調査方法：郵送による配布回収
 回収率：約43%（回収票213/配布票500）

2. アンケート調査結果

2.1. 湯本駅周辺の利用状況や印象について

2.1.1. 湯本駅周辺を訪れる頻度

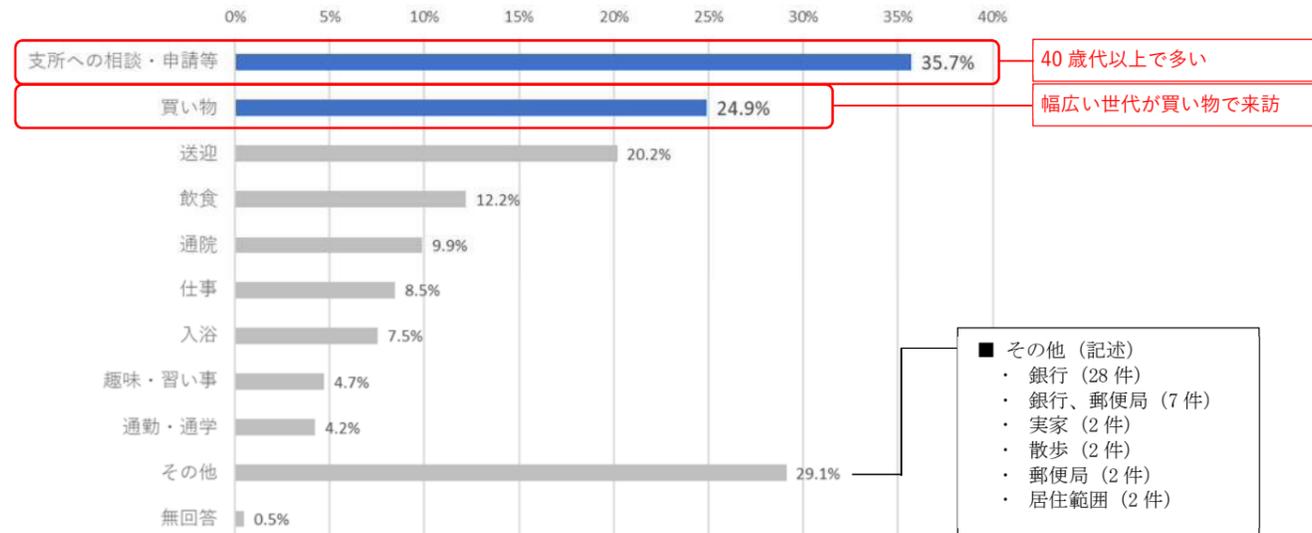
「年に数回」が約13%、「週に1～2回程度」が15%と、駅周辺を日常的に訪れる住民は約28%となっており、20～70歳代までの各世代にわたり、**湯本駅周辺の来訪頻度は低い**ことがわかる。



- ◎日常的に駅周辺を訪れる住民は約28%と低い
- ◎年齢別による傾向もみられず、「世代を問わず、駅周辺へ来訪しない」実態

2.1.2. 湯本駅周辺を訪れる主な目的（3つまでの回答）

「支所への相談・申請等」が35.7%で最も多く、次いで「買い物」が24.9%となっている。「支所への相談・申請等」は40歳代以上の住民が目的としており、「買い物」は20歳代～70歳代以上の幅広い世代が目的としている。

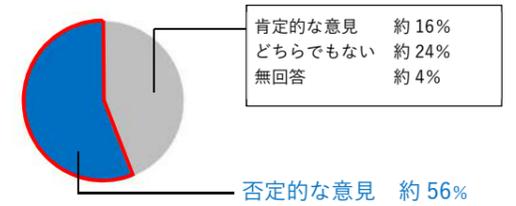


- その他（記述）
 - ・ 銀行（28件）
 - ・ 銀行、郵便局（7件）
 - ・ 実家（2件）
 - ・ 散歩（2件）
 - ・ 郵便局（2件）
 - ・ 居住範囲（2件）

2.1.3. 現状の湯本駅周辺についての印象

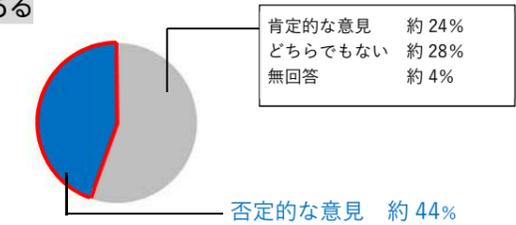
① 駅前に誰でも集まりやすい場所（空間）がある

否定的な意見（「どちらかといえば思わない」と「思わない」）が約56%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で否定的な傾向が強い。このことから、駅前空間や土地が有効に活用されていない状況が伺える。



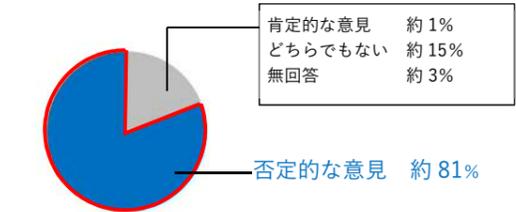
② 支所や公民館、市民会館などの公共施設は行きやすい場所にある

否定的な意見が約44%を占めており、年齢別にみると、特に50～70歳代で否定的な傾向が強い。このことから、高齢者を中心として、公共施設へのアクセスが十分ではない状況が伺える。



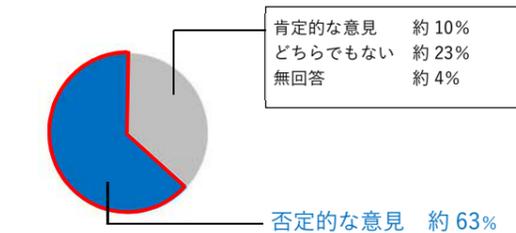
③ 商店街に賑わいや活気がある

否定的な意見が約81%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。このことから、新たな魅力ある店舗の誘導（新規出店や空き店舗等の活用）などが求められている。



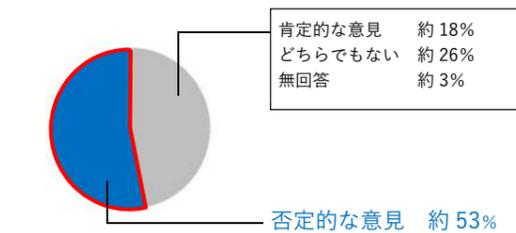
④ イベントが多く、賑わいがある

否定的な意見が約63%を占めており、年齢別にみると、特に20～30歳代で否定的な傾向が強い。このことから、若い世代を巻き込んだイベント等の開催により、まちの賑わいが感じられる取り組みが求められている。



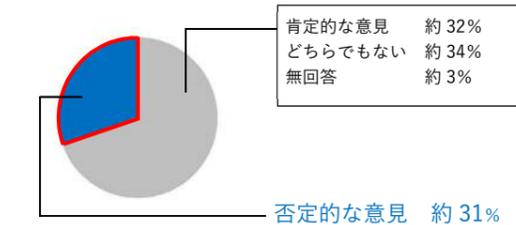
⑤ 温泉街には風情や雰囲気がある

否定的な意見が約53%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。このことから、温泉資源を十分に活用できていない状況が伺える。



⑥ 安心して歩ける空間がある

否定的な意見が約31%、肯定的な意見が約32%とほぼ同数となっており、各年齢ともに同様の傾向となっている。住民は、改善余地のある道路があると感じているため、安全な道路空間の整備が求められている。

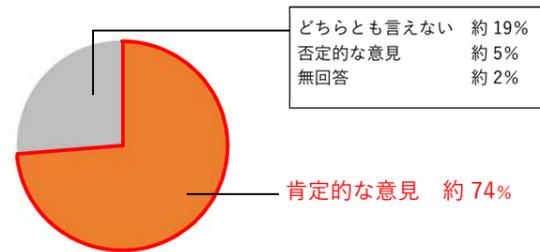


2.2. 常磐地区まちづくり検討会の計画素案（基本目標や方針、取組み）について

【基本目標】「温泉とフラ」を活かした活力と魅力あふれる市街地の再生

肯定的な意見（「望ましい」と「おおむね望ましい」）が約74%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

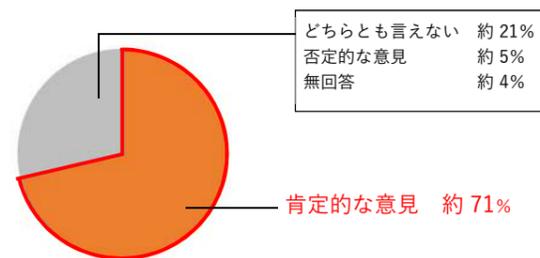
一方、否定的な意見（「あまり望ましくない」または「望ましくない」）を選択した理由として、「温泉の和とフラの洋はどっちつかずで統一感がない」といった記述があったため、基本目標の再設定が必要である。



【整備方針①】多世代が集う交流拠点の形成

肯定的な意見が約71%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で肯定的な傾向が強い。

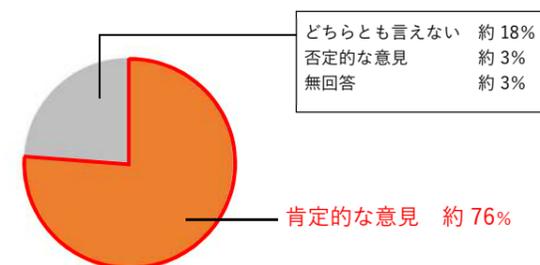
一方、否定的な意見を選択した理由として、「やる事が中途半端」などといった記述があったため、今後、施設コンセプトや導入機能の設定などが重要となる。



【整備方針②】温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備

肯定的な意見が約76%を占めており、年齢別にみると、特に20～40歳代で肯定的な傾向が強い。

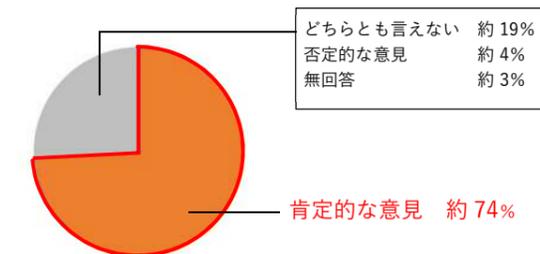
一方、否定的な意見を選択した理由として、「温泉とフラと両方は中途半端」といった記述があったため、今後、景観コンセプトの検討が必要となる。



【整備方針③】商店街のにぎわい再生

肯定的な意見が約74%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

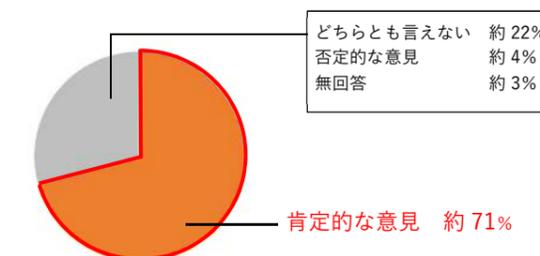
一方、否定的な意見を選択した理由として、「行きたくないお店やカフェがない」といった記述があったため、商店街の関係団体と、にぎわい再生に向けた取り組みの方向性等について整理・共有を行う必要がある。



【整備方針④】温泉街の滞留拠点の形成

肯定的な意見が約74%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

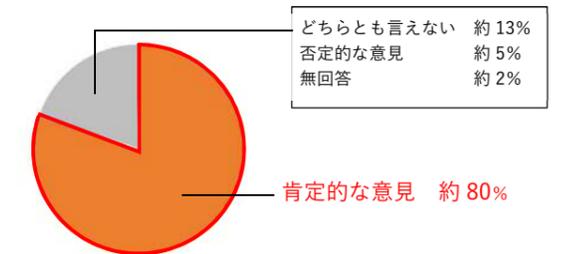
一方、否定的な意見を選択した理由として、「観光客には良いが住民は普段利用しない」といった記述があったため、観光客だけでなく、住民にとっても気軽に立ち寄れる拠点となるよう、検討を行う必要がある。



【整備方針⑤】歩きたくなる沿道景観、道路空間の整備

肯定的な意見が約80%を占めており、各年齢ともに同様の傾向となっている。

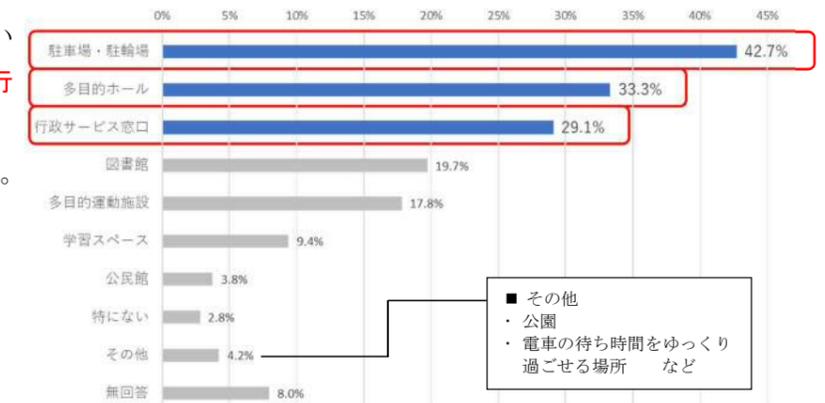
一方、否定的な意見を選択した理由として、「フラにこだわりすぎ」といった記述があったため、事業内容や景観コンセプトの検討が必要である。



2.3. 湯本駅前交流拠点に必要なと思う機能（行政）（民間）（2つまでの回答）

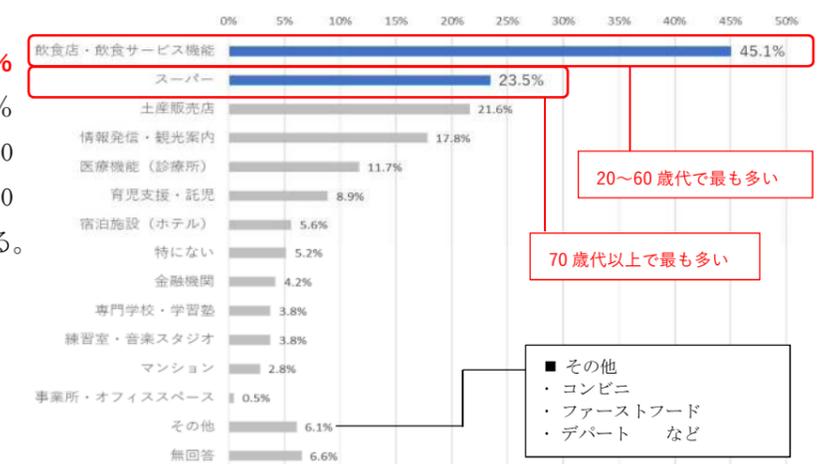
(1) 行政

「駐車場・駐輪場」が42.7%で最も多く、次いで「多目的ホール」が33.3%、「行政サービス窓口」が29.1%となっている。年齢別にみても、同様の傾向となっている。



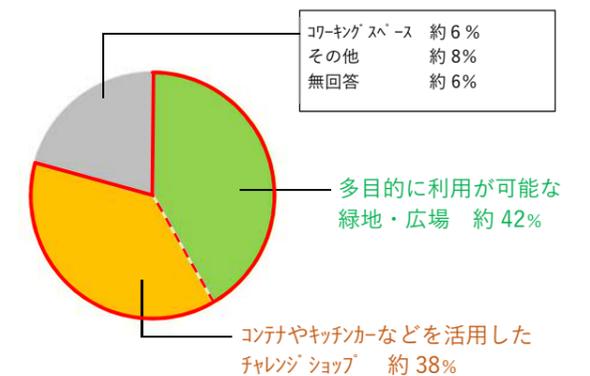
(2) 民間

「飲食店・飲食サービス機能」が45.1%で最も多く、次いで、「スーパー」が23.5%となっている。年齢別にみると20歳代～60歳代では「飲食店・飲食サービス機能」、70歳代では「スーパー」が最も多くなっている。



2.4. 天王崎団地解体工事終了後の土地の利用方法

「多目的に利用可能な緑地・広場」が約42%で最も多く、次いで、「コンテナやキッチンカーなどを利用したチャレンジショップ」が約38%となっている。年齢別でみると、20～40歳代は「チャレンジショップ」、50～70歳代は「緑地・広場」の傾向が強い。



2.5. 主な自由意見

【市街地再生全体に関する意見】

- ・若者が集まってくるようなおしゃれでゆったり過ごせるようなカフェや飲食店等、インスタ映えするような場所があると良い。
- ・「和」のイメージの温泉街を売りにするのか、フラをメインにするのか、中途半端にならないようにした方が良い。
- ・映画でも取り上げてもらった湯長谷藩や神社・仏閣等、歴史を活かすことも考えてはどうか。

【湯本駅前に関する意見】

- ・昔はカメソウとかフジコシとかあって、家族で利用できる場所があってよく駅周辺に行っていたが、今は子ども連れで利用できる場所はない。
- ・御幸山公園の階段がきつすぎて老人・小さいお子様つれの人が集まらない。桜が素晴らしいのに残念。
- ・観光客だけでなく、地元の人たちが行きたくなるような、魅力的な駅前になってほしい。
- ・多世代が楽しめる空間やカフェ、お店、インスタ映えスポットなどたくさん増やせば、SNS で人が集まると思う。
- ・常磐支所が古く、駐車場も少ないので、車で行けない年齢になってもバスで行ける駅前にあったら、利便性が高いのではないではないか。
- ・市営住宅跡地以外も含めて区画整理を行って温泉街らしい街並みを作ってほしい。
- ・駐車場の確保が必要。

【温泉街に関する意見】

- ・温泉客が浴衣で散策できるような通りにしてはどうか。
- ・もっと湯本温泉旅館の情報を発信・共有し、多くの人に温泉に入浴してもらいたい。
- ・駅から歩いていける温泉旅館を売りにするのはいいと思う。
- ・炭鉱の街・温泉の街らしい情緒あふれる街並みをつくってほしい。

【商店街に関する意見】

- ・駅前駐車場の整備をし、商店街がにぎやかに若い人も楽しめるカフェが多くできるとうれしい。
- ・駅周辺を利用した際、無料になる（1時間など）サービス券発行の駐車場を分かりやすく作ってほしい。

【その他】

- ・湯本町の観光資源を活かして他の地区とは違った特色のある町づくり（差別化）をしていくことが大事。
- ・早急に事業化し、観光地として復活させてほしい。